

使っている花 ■ アジサイ(アルペン
ローホットピンク)、アスパラspre
ゲリー、オンシジウム(ハリ)

6月
June



アジサイ

花言葉 元気な女性 / 家族の結びつき

水を宿して輝く紫陽花
梅雨空に溶け合うニュアンスカラー

プロが伝授!花を長く楽しむアドバイス

- 房状の花を優しく手で広げながら通気性をよくし、花がムれて傷まないようにしましょう。傷んで黒くなっている部分があれば取り除きます。
- 茎はできるだけ斜めにカットし、中の白い綿をナイフやハサミの先端で掻き出すように取り除くと、水揚げがぐっとよくなります。
- アジサイは小さな花(といっても実際は額です)をたくさん咲かせるために栄養が必要です。切り花栄養剤をぜひ活用しましょう!

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ①器にやや多めに水を入れ、切り花栄養剤を適量加えます。
- ②アジサイは花のボリュームによって1~2本使用します。水に浸かる部分の葉や多めの葉を取り除きます。茎は斜めにカットし、茎の中の白い綿を掻き出すように取り除きます(このひと手間がポイント!)
- ③器の口元にアジサイをふわっとのせるように生けます。スプレングリーを長めにあしらって涼しげな演出を。ラン(写真はオンシジウム)やクレマチスなど軽やかな花をプラスしても素敵です。

優しい雨を彩るアジサイ

古くは万葉集にも歌われ、日本人の心を癒してきた花。海外での育種や生産もさかんで、シックなアンティークカラーの輸入品も多く出回りますが、国産の季咲きのアジサイは雨に移ろう優しい色彩や水を宿したような瑞々しさが魅力です。最近コロンビアから染めのアジサイが輸入されるようになり、ユニークかつ美しいと話題を呼んでいます。

